授業改善等に関する報告書（2024年後期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2024（後期）日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネスマナー入門	佐藤 圭子	少人数での授業で、居心地の悪さもあつたかと思いますが、課題に丁寧に取り組むことができていました。授業内での学びが、一つでも社会生活に役立つよう願っております。
基礎ゼミ	西脇 智子	履修生は熱心に授業に取り組んでくれました。しかし、授業アンケートへの回答はありませんでした。今後も工夫して取り組んで行ければと思います。
アナウンス技術演習	鹿島 千穂	ほぼ全ての項目で平均を上回る高い評価を得られたことを嬉しく思います。特に「自身の成長が実感できましたか?」「この科目をさらに学びたいと思いましたか?」の項目での得点の高さは、受講生のみなさんが「音声表現」に興味を持ち、この分野は訓練により上達できることを実感した結果だと思えます。ぜひ、授業を通して得られたスキルを今後の生活に活かしていただく。
女性文学	高瀬 真理子	受講態度による差がレポートには歴然と現れました。女性作家の中でも円地文子は、背後にある教養や古典文学等の素養を必要とし、そういう意味で難しく、男性の文豪レベルと向き合う気概が必要です。一方で、男性文芸評論家にはなかなか見抜けない女性ならではの厳しさや優しさ、男性に対する切望などが垣間見えます。本授業が、学生のみなさんのこの先の人生の糧になるように学んでほしいと願ってやみません。
日本語コミュニケーション入門	西脇 智子	履修生は熱心に授業に取り組んでくれました。しかし、授業アンケートへの回答はありませんでした。今後も工夫して取り組んで行ければと思います。
ビジネスリテラシー応用	板倉 文彦	授業評価は概ね平均値を上回ることが出来ましたが、「自身の成長実感」及び「自己評価（成績）」は平均値を下回ってしまいました、このことは、受講生の皆さんに「自信」を十分に持ってもらえなかったものと考えます。今後はこの反省を生かして、受講生の皆さんが学んだ内容を十分定着させ「自信」を持ってもらえるようにしたいと思います。
日本文学の歴史 d 現代	高瀬 真理子	今年度は、作家ひとりひとりについて、かなり細かく資料を使い、紙本から、コピーを駆使した自作データベース的なものまで作りしたので、少し、凝りすぎて、緻密になりすぎたかと思っています。しかし、文学史テキストに書かれている側面とは違う観点があることにも気づくことができました。そのような点まで伝わった履修生もいたようで、うれしく思います。
企業と情報	板倉 文彦	授業アンケートでは、全ての項目で平均値を上回ることが出来ました。本授業は、受講生の皆さんのほとんどがまだ体験していない企業についての授業ですが、皆さんが意欲を持って受講いただけた結果が数値に出たものと思えます。フリーコメントからは、授業最後に出す課題やケーススタディに関して役立つとの意見をもらいました。今後も受講生の皆さんの理解と、知識の定着を目指して工夫をしてきたいと思えます。
自己表現法	高瀬 真理子	再履修クラスですので、シラバスに沿いつつも出席者に合わせることを心がけて授業を進めました。受講生がその点を理解してくれた点がよかったです。
卒業研究 b	高瀬 真理子	学生たちの自己評価は低めでしたが、それだけ厳しい目で自分たちの研究に真摯であったことの証であると思えます。一人ひとりが卒業研究レポート提出に向けて懸命に努力しており、教員側の研究のヒントになる学生すらありました。何にしましても地道に研鑽する姿勢と実力は、確かなものだと確信しております。
卒業研究 b	大塚 みさ	2年間の集大成となる卒業研究に、全員が全力で取り組めたことをうれしく思います。週当たりの学習時間が平均値を大幅に上回っており、みなさんの真摯な取り組みの様子がうかがわれました。研究を通して問題発見力や論理的な考察力、人に伝える力が身についたという感想が寄せられた点もうれしく思いました。終盤は毎週レポートの進捗確認を行いました。疑問がすぐに解消できたという声に安堵しました。卒業研究レポートの執筆を通して身につけたスキルを、今後の人生で生かしていただく。
卒業研究 b	板倉 文彦	授業評価は、全ての項目が平均値以上となりました。本授業（ゼミ）は、調査・グループワーク・プレゼンテーションを重ねたもので受講生の皆さんの負荷は高かったと思えますが、積極的に取り組んでいただけた結果だと思えます。上記に加えて、商用データベースを活用したデータ分析も取り入れましたが、フリーコメントでは分析の重要性を感じたとのメッセージも頂きました。将来社会に出た後に役立ててほしいと思えます。
卒業研究 b	鹿島 千穂	多くの項目で平均を上回る評価を得ることができていました。特に「週当たりの予習復習時間」は平均を大きく上回り、ゼミ生のみなさんが熱心に卒業研究レポートに取り組んだことが見てとれます。頑張った自分を褒めてあげてください。また、自由記述欄には、自身の成長を感じることができたという前向きなコメントが溢れていました。短期大学部最後の1年間にみなさんの研究指導ができたことを、心から嬉しく思います。
プレゼンテーション入門	鹿島 千穂	短期大学部閉部に伴い、履修人数が大変少ない中での開講となりました。プレゼンテーションは他の受講生の発表を見ることを通した学びも大きく、その点を享受できなかったことは残念ですが、受講生それぞれが真剣に授業に取り組み、成長できたことを嬉しく思います。ぜひ、授業を通して身につけたスキルを今後活かしていただく。